

## 研修会報告

令和7年7月22日

文責：諸橋 彰

研修会テーマ「令和6年度宮臨技精度管理調査 病理部門フォローアップ研修会

～免疫組織化学染色（CEA）～

開催日時 令和7年7月19日（土）13：00～16：00

会場 Zoom ウェビナーによる Web 研修会

司会 佐藤 正樹

生涯教育点数 専門教科 20点

参加者 会員参加者 87名 入会申請中会員 0名 非会員 7名 賛助会員 1名 学生 0名  
合計 95名

講演1 「令和6年度宮臨技精度管理調査 病理部門調査報告・アンケート報告」

みやぎ県南中核病院 病理診断室 千崎 久美子 技師

講演2 「令和6年度宮臨技精度管理調査 病理部門検討報告」

仙台オープン病院 診療支援部 臨床検査室 井上 皓太 技師

講演3 「脱脂の基本と当院での検体処理方法」

東北公済病院 臨床検査科 高橋 良輔 技師

講演4 「脱灰液浸漬における病理組織標本への影響」

東北大学病院 病理部 菅原 隆讓 技師

講演5 「令和6年度宮臨技精度管理調査 病理部門総評」

「早期膵癌における病理診断の役割」

東北大学大学院医学系研究科 病態病理学分野 村上 圭吾 先生

### 内容

本研修会は、昨年度に引き続き Zoom ウェビナーによる Web 開催となった。

講演1では、千崎久美子技師より、病理部門における抗 CEA 抗体を用いた免疫組織学染色に関する精度管理調査の報告と、各施設における脱脂・脱灰操作に関するアンケート結果の報告が行われた。

精度管理項目である抗 CEA 抗体を用いた免疫組織学染色では、ほとんどの施設で総合評価 A という良好な結果が得られたが、1施設において非特異的反応により陰性コントロールが染色され、C 評価となった。この結果を受け、当該施設に再染色を依頼し、メーカーの協力も得ながら原因を調査したところ、再染色では陰性コントロールに染色は見られず、突発的な要因による可能性が示唆された。アンケート結果では、各施設の脱脂・脱灰方法や使用薬品、問題点などが共有された。

講演2では、井上皓太技師より、精度管理調査で問題となった染色性の不均一性への対

処法が示された。あわせて、CEA の抗原量と大腸癌組織における①染色強度、②腫瘍面積、③静脈侵襲・リンパ管侵襲、④癌組織の分化度との関係性について詳細な検討報告が行われた。

講演 3 では、高橋良輔技師より、アンケート調査結果に基づき脱脂操作に関する報告があった。使用薬品ごとのメリット・デメリットや、脱脂操作前の注意点、ティッシュプロセッサを用いた効率的な脱脂方法が紹介され、実務に直結する有用な内容であった。

講演 4 では、菅原隆讓技師より、アンケート結果に基づく脱灰操作に関して、使用する脱灰液の違いが組織に与える影響や、脱灰操作が DNA および RNA の品質に及ぼす影響についての検討結果が報告された。現在の病理業務において DNA および RNA 解析は切り離せない関係にあり、大変参考になる講演であった。

講演 5 では、村上圭吾先生より「令和 6 年度宮臨技精度管理調査 病理部門総評」および「早期膵癌における病理診断の役割」について講演が行われた。膵癌の疫学、遺伝的特徴、最新の画像診断基準など幅広い内容が盛り込まれ、今後の課題として、早期膵癌の発見において細胞診断の役割がより重要になる可能性が指摘された。今後企画される研修会にもつながる内容であった。

今回の研修会は Web 開催ということもあり、県内のみならず県外からも多数の参加があった。Web 開催のメリットは大きい一方、フォローアップ研修会の主な対象である県内施設からの参加者の増加や、現地開催の実現も今後の検討課題である。

今後も、宮城県臨床検査技師会の会員にとって必要な情報とは何かを検討し続け、精度管理調査やアンケート調査を通じて得られた知見をもとに研修会を開催し、会員の技術および知識の向上につなげていきたい。